

全国民間保育園経営研究懇話会

経営懇ニュース1月号 (No.170)

2018年1月31日

162-0837 東京都新宿区納戸町 26-3 保育プラザ 3F Tel03-6265-3174 Fax03-6265-3184 gsp10404@nifty.com

経営懇会員のみなさん、いかがお過ごしですか。

2018年は年明けから全国的に気温が低い日が続き、寒い冬となっています。インフルエンザが流行っている園もおおく、余裕のない職員配置のもとで、職場のやりくりにも苦勞されていることでしょう。春よ来い、早く来い！そして、余裕のない保育現場にも「春」がきて、ゆとりある職員配置と専門性や経験に見合った公定価格が実現するように、現場から声をあげていきましょう。2018年もよろしく願いいたします。

子どもたちに平和憲法を！！

会長 石川幸枝（広島・愛児福祉会）

全国経営懇の会員みなさん！新年あけましておめでとうございます。

新年早々、長浜を会場に開催された第38回経営セミナーは、420名に近い参加者を得て盛会のうちに終了しました。

多くの参加者から「1日目から最後までほんとうに内容の充実したセミナーでした。」という感想をいただきました。自画自賛のようですが、私自身も同じ感想を抱いた今回のセミナーでした。講師陣のみなさんが用意してくださった内容が私たちの今求めているものとぴったり合っていたのではないのでしょうか。研修部を中心とした役員会の講師選びがよかったとも言えます。

更に経営懇会員園のみなさんの分科会の提案の中身が、多くの学びのある内容の濃いものだったことに痛く感動を覚えたものです。それぞれの提案の中身は、にわか仕立てのものではなく、それぞれの法人・園の歴史的積み上げそのものであり、法人理念や経営方針の堅実な実践の成果であると思いました。日々より良い保育、よりよい保育園経営を目指して、民主的に挑んでこられた各法人のみなさんの一朝一夕ではないご努力が結実されたものなのだと強く思った次第です。

経営懇は、保育の世界ではまだまだ小さい集団なのかもしれません。しかし、ここに挙げたような歴史的成果をもつ法人・保育園の先進的な実践

的価値は、輝かしいものですし、他の保育団体には絶対ないものが光っていることに尊敬の念をもちながら、そのような方々と仲間であることを誇らしく思った次第です。

2018年の経営懇の課題の一つとして、経営懇の発信力をさらに高めるためにも仲間を広げ組織を大きくすることが必要です。今年中には550施設の会員数に届いていくのではないかと期待しています。そして同時に、全国各地で取り組んでおられる地道な努力の積み上げをもとに、地域の保育要求と結びつきながら、一つ一つ確かなあゆみを進めていくことが何より重要です。

このような地味だけれど輝く光を放つ法人の集まった経営懇だからこそ、国民要求にこたえる発信ができると確信します。

今年は「改憲」に向かってひた走る勢力の「戦争できる国づくり」に対峙して、保育に関係するすべての人たちと手つなぎの輪を大きくして、「平和憲法」を守り子どもたちに手渡したい！

平和憲法を守る運動が全国各地で取り組まれることを心より期待します。その一環として「第50回合研 in 大阪」※を大成功させようではありませんか。



※第50回全国保育団体合同研究集会（合研集会）の詳細は別紙

第38回経営研究セミナー

32 都道府県 413 名が参加

1月8～10日に開催した第38回経営研究セミナーには、32都道府県から413名の参加がありました。参加された皆さん、ありがとうございました。

◆シンポジウム

「今こそ、すべての子どもが輝く保育の確立を～保育指針「改定」を超えて、私たちが大切にしたいこと」

1日目シンポジウムは、シンポジストに世取山洋介さん（新潟大学）と安積力也さん（基督教独立学園高等学校前校長）、コーディネーターは大宮勇雄さん（福島大学・全国保育団体連絡会会長）でした。



世取山さんには、子どもの権利条約の観点から、保育の現状と課題についてお話いただきました。子どもの権利条約は、“子どもの権利の本質は子どもの主体性にあり、子どもは言葉によるコミュニケーションが成立する以前から、様々な方法で自分の意志を伝えようとしている”、と乳幼児期の子どもの権利を明確に位置付けています。しかし、意志の疎通が実現するためには、大人の仲介が不可欠です。子どもの権利保障には、大人の地位が重要なカギを握っているとも言えます。そして、専門的ケア提供者の十分な人員配置や専門的資質向上のための研修保障、社会的な地位の確保や適切な給与の支払いが必



要であることにも言及しているのです。

国連は、こうした観点から日本の子ども
の状況を見て、い
じめや不登校、貧困

問題が子どもに大きな影響を与えていると指摘しています。特に、シングル家庭の置かれた状況が子どもに及ぼす影響について指摘し、保育園が重要な役割を果たしていると、指摘しています。今後、保育の民営化や保育・教育への成果主義の導入、保育・教育労働者の労働条件の低さなどを、国連に報告するとりくみが民間レベルで進められています。

こうしたとりくみを中心的に進めてきた世取山さんは、今回の改定保育指針について、権利主体としての子どもの姿がどこにもない、と指摘しました。保育指針をあざ笑うような実践を展開し、地域で顔をつきあわせながら広げていこうと呼びかけました。

安積さんは、聾学校
や高校など教育現場で
の経験をもとに、子
どもの姿もまじえながら、
子どもの教育に携わる



者として自分を問い直してほしい、と語っていました。子どものため、といいながら、自分の不安や恐れをなくしたくて何か言ったりやらせようとしていたりしていることはないでしょうか。子どもも親も、意のままにはなりません。意のままにならない他者と現場で苦闘しつづけていくこと、その中から教育とは何かということを見つけ出していくことが求められているのではないか、と語りました。

お二人のお話しや現場からの報告を受けて、大宮さんは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に



子どもをあわせるのではなく、子どもが新しい環境・場所に行ってもやっていける、という希望を持てるようにしていくことが接続の

あるべき姿ではないか、学校教育をすぐには変えられないけれど、一人ひとりの子どもの思いや願いを伝えながら小学校と手をつなぐことから、やってみようと言われました。

<アンケートより>

- 世取山さんの「劣悪な条件の中でも現場の保育士は努力している」という考え方、地域での保育士との手つなぎを考えると参考になりました。みんな、子どものために頑張っている。その声を国や自治体にも知ってほしいし、処遇改善につながれば、と思った。
- 頭では子どもの権利があると思いつつも、実際、幼児にあるのか？と置いていましたが、「指さし」の話からストンと乳幼児の権利もあるとわかりました。この考えを進めていけば、「保育士の権利」も、この「子どもの権利を保障する」という「保障するための」権利であると思いました。保育士の労働条件を考える必要あると感じました。当たり前のことでしょうが、強く感じました。
- 新指針を権利という角度から分析されたことは、視野が広がった感じがして、心に響いた。
- 子どもの権利条約では、本当に大切にされるべきことがしっかりと記されていることに驚いた。日本の保育制度もこの条約を根底に置いて考えられるべきであったのでは、と感じました。
- シンポジウム、報告者の話ばかりだが、参加者からの質問も受けつけてほしい。一方通行のお話は、内容が良くても物足りない。
- 安積先生のお話から、子どもの世界観が変わってきていることが分かった。子どもは社会の変化から大きな影響を受け切り離せない。
- 若者の現状がわかったが、一方でこのような社会でも懸命に前向きに生きようとしている若者がい

るので、そうした事例も話してほしかった。

- 安積さんが話された子どもたちの現状から、社会を変えなければと強く思った。人は、自分がされたように人にすることができる、との言葉が印象的でした。
- 「聴く」そして「待つ」、安積先生の力強い言葉に素直に「そうなんだ」と納得できました。
- あらためて、保育の主体は子どもであるということを確認しました。指針に掲げられた10の姿は、上から押しつけて実現するわけではなく、一人ひとりの子どもの表現を大事にする中で、自然と身につくものだと思う。
- 保育指針の改定で右往左往していますが、やはり子どもの現状に戻って。そこからしか保育はできない…ということを確認しました。

◆2日目～講座&分科会

2日目は講座・分科会。参加者の声を紹介します。

*会計講座(午前～午後)

- 会計講座は何度か聞きましたが、すぐ忘れがち。今回はより分かりやすく理解することができた。
- わかりやすかった。資料もあとで調べられるように工夫されていた。参考にします。

*講座A:「我が事・丸ごと」地域共生社会とは何か(浜岡政好さん)

- 高齢者、障害者、保育と連動していることがよく分かる。税金をどう使うのか、後退させられてきたものを運動で戻していかなければ。
- 「我がごと・丸ごと」ここまで進んだ現状の中で、新しい形の協同やつながりをつくる取り組みをどう進めるか、考えていきたい。

*講座B:子ども主体の保育を実現するための保育園のありかたーいま改めて子どもからの視点をー(清水玲子さん)

- 自分と意見が違う相手に対して、「どうして、そうなったのかなあ？」と、面白がって聞いてみることで大切よね～という言葉が印象に残りました。



- ・職員同士の関係について聞きたかったが、子ども理解が、結局は大人にも通じると

いう点では、考える方向性をつかめた気がする。

- ・1日目の進歩につながるテーマで「子どもの主体性を大切にする保育、それをつくる職員の関係づくり」が聞けた。
- ・子ども主体の保育実践とは何だろう…？そうしたいと思って保育をしてきたつもりだったのに、清水先生の話聞く中で、「本当にそれでよかったのか？」と考えさせられた。子ども主体とは？再度、見つめなおしたい。

*** 講座C: 保育士の処遇改善を考える(袁翰明子さん・逆井直紀さん)**

- ・保育士の本俸基準額の水準は引き上げ、施設長は引き下げていることに驚きました。
- ・公定価格の引き上げと、保育業界の最低賃金をつくるべきという提起は新鮮だった。
- ・採用試験を2回行ったが1回目は応募がなく2回目ですべて3名の応募。保育士不足は近隣の法人も切実、全員を対象にした処遇改善で底上げがされるような運動が大切だと感じた。
- ・労働問題と保育問題のつながりが、良くわかった。

*** 講座D: 子どもの命を守るために—保育事故と改定保育指針から「保育」を問い直す—(平沼博博さん)**

- ・親に子どもの遺影を抱かせてはいけない。未認可施設の問題ではなく、すべての乳幼児施設の問題だと感じた。新指針の枠組みの中で更に事故が増えるのではないかと、不安。
- ・今の制度の中で、いかに子どもの命を守る体制をつくるか、次年度の職員配置を考えるこの時期に

話を聞いて良かった。

- ・保育園で起きた死亡事故の写真をあらためて目にして涙し、気持ちが引き締まりました。学習、見直しをすぐ始めたい。
- ・命を守るために、行政にも働き掛けないといけない。指針の話ももう少し聞きたかった。
- ・ガイドラインについて、職員で学習会をしたい。

*** 分科会1 処遇改善加算IIの交流と配置基準・公定価格の改善**

- ・現実に発生している不都合（園長の方が低くなるなどの不公平感、賃金体系が崩されるなど）を国に突きつけるべき。それには、自園ではこう配分したという実例を突きつける運動も考えられる。
- ・地域ごとに違いがある。各施設のとりくみも熱く語られ、頑張る仲間の交流の場にもなった。

*** 分科会2 理事会・評議員会のあり方と本部体制の確立**

- ・小さい法人は小さいなりに本部機能をつくる必要がある
- ・本部の確立には、財源と若い人材の確保が必要。そのためには、給与を一定高く設定する必要があり、我が法人の課題。
- ・理事会、評議員会にしぼって論議できてよかった。

*** 分科会3 社会福祉法人の役割と地域の願いにこたえる事業**

- ・行政と上手に付き合いながら要求もし、近隣の法人と連携していることに感動した。
- ・跳ね返す力を持っていくために、連帯・協同を。

*** 分科会4 園長の役割とは**

- ・園長の姿勢が大切なのがよく分かりました。
- ・園長として悩みをたくさん抱えての参加でしたが、周り





っかりしている園長先生ばかりで、もう少し弱音がはける場であっても…と、心が重くなった。

- みんなで育てみんなで待つ、という保育理念に納得。午前中の清水玲子さんのお話と重なった。
- 目の前の悩みはみんな同じ、ということに安心。一緒に参加した新園長と、「園長って、なんでもやだね」と笑いあえたことが本当にうれしかった。

*** 分科会5職員集団づくり・職員育成のとりくみ**

- 提案はすごすぎて圧倒された。分散会で発言された「ネクスト会議」は、法人ですぐに実践してみたいと思いました。
- 昨年から自己評価を始めたが、法人として職員育成要綱をつくっていくことから始めたいと思った。最初から大きなことはできないが、一步一步進めていきたい。
- グループ討議はもう少し少ない人数にすると、時間が少ない中でも意見が出しやすく論議も深まると思った。

*** 分科会6保育園の運営と職場内での合意づくり**

- 7～8人のグループ討議で自分の話ができるのはとてもいいと思った。
- 合意作りの難しさを感じる。お互いに意見を出しあえる関係を築くことが大切、園長としての仕掛けづくりも必要。
- いろんな園の状況が聞けて良かった。
- どこも同じ課題を抱えて頑張っていることがわかり励まされた。



*** 分科会7保育の質と安全のとりくみ**

- 会員園での事故は他人事ではない、自分の事としてゾクッとした。安全管理が後回しになってる？
- 園長の役割の重大さを感じた。同時に、職員の力も必要であり、共に取り組んでいく体制づくりをしていきたい。

◆活動交流

3日目は、各地の活動を報告していただきました。愛知からは、保育士の処遇改善に向けた実態調査のとりくみを、名城大学の蓑輪明子さんと共に進めていることが報告されました。当初は、つながりのある関係園を中心にした調査でしたが、名古屋市内の民間保育園の組織（名保連）に協力をよびかけたりする中で協力する地域や園が広がっています。東京からは、法人で行った平和学習のとりくみが報告されました。若手がどう感じるのか不安がありましたが、新鮮に受けとめ考えようとする姿がありました。また、平和の問題に関しては、あいち保育共同連合会から、憲法9条改悪阻止の全国統一3000万署名にとりくむことに決めたという発言もありました。

◆記念講演「社会を変えるのは私たち—世界に学び「攻め」の市民運動を一」



記念講演は、ジャーナリストの伊藤千尋さん。世界各国での豊富な取材をもとに、市民が立ち上がっている事例をお話してくださいました。「国際的な事実に基づく話は説得力があった」「勇気をもたらした」など、とても好評でした。

3日目に確認したアピールを同封しています。

連載

職員会議のくふう

第7回

福岡・(福) 頓野児童福祉会
ポッポ保育園・下境保育園

<はじめに>

社会福祉法人頓野児童福祉会は、福岡県直方市内でポッポ保育園と下境保育園の2施設を運営しています。

産休明け保育の無認可保育所から始まったポッポ保育園は、1982年に認可を受け、無認可保育所時代を入れると50年以上の歴史があります。

筑豊地域で初めての公立保育所の民営化により移管を受けた下境保育園は、事業を引き継いで今年で16年目になります。職員は2施設併せて54名(施設長等含む)です。再来年度からは、直方市の隣町である福智町の公立保育所民営化により、1施設の事業を引き継ぐことになっています。

<職員会議の現状と課題>

○現状

職員会議は、月一回18時から正規職員と常勤の臨時職員で行っています。年度末には、2施設合同の職員会議を開催し、理事長から職員へ一年間の労いと次年度の法人経営の展望や人事発表を行っています。

職員会議前には、施設長、主任、副主任、リーダーを構成メンバーとした運営会議を行い、職員会議の議題選定と園の運営に関わることについて話し合っています。また、未満児会議と以上児会議を月一回行い、各クラスの連携や課題などの共有、それぞれの運営について話し合っています。クラス会議は不定期で開催し、単数担任のクラスには主任が入り現状把握とアドバイス等を行っています。

○課題

20年ほど前までは、施設内部会議が基本的に職員会議だけでした。会議時間が夕方から22時を過ぎることもあり、職員の負担が大きいことが課題でした。そのため、職員会議の前段階として運営会議を位置付けるなどの系統性を持たせ、職員会議の時間を2時間程度に短縮しました。会議時間の短縮により、職員の負担は減りましたが、職員の入れ替わりもあり職員会議の質については、改めて論議することはなくなっていました。また、世代交代の時期に入ってきており、保育の継承についてもどう進めていくのかが、課題になってきていました。現場指導だけではなく、会議の中でベテランも中堅も若手もみんなで集団論議することの大切さを改めて感じ、職員会議を含めた施設内部会を整理することにしました。

まずは、各会議の課題を出しました。以下は、主な会議の課題です。

- ①職員会議は伝達事項が主になり、本来必要な討論事項に十分に時間がかけられていない。そのため、限られた職員の発言になっている。
- ②未満児、以上児会議は、少人数での話し合いなので個人の発言回数は多い。しかし、建設的な意見が出にくく、愚痴で終わることがある。
- ③クラス会議は、不定期開催のため(未開催もある)複数担任クラスでは意思疎通がしっかりと図れていないことがある。また、単数担任ではクラス運営などを、一人で悩んでいることもある。
- ④施設間で職員会議の進め方に差異がある。

○会議を可視化する

次に、職員会議を施設内部会議の最高議決会議として改めて位置付けました。そのうえで、討論を中心とした会議になるための内容の再検討や各会議との系統性、目的や進め方などを整理することにしました。具体的には、各会議の目的、構

成メンバー、開催数・時間、内容、進行、準備を明確にしました。

例えばクラス会議については次のように整理しました。

クラス会議

[目的]

◇こどもの成長や課題などを担任間で共有し、保育計画の立案・総括をする。

[構成]

◇クラス担任・リーダー(リーダーは基本的に計画会議参加)

[開催数・時間]

◇開催数：月 2 回(時間 90 分程度)

上旬：計画会議 下旬：総括会議

[内容]

- 1、月案、週案の総括と計画（当月の総括を踏まえ次月の計画を立てる）
- 2、個人総括（当月の個人総括案を机に出し、一人ずつ育ちや、発達課題を丁寧に確認していく）
- 3、個人計画（2をもとに次月の個人計画を検討する）
- 4、保護者対応（保護者支援を担当間で共通させておく）
- 5、クラス運営について（保育士の動きや生活の流れ部屋の使い方などを検討する）
- 6、その他（参考文献の読み合わせなど）

[進行]

◇クラス主任

[準備]

◇月案・週案・個人記録・頓野児童福祉会保育指針・必要に応じて参考文献

そして、会議の流れなどが分かるように会議フロー図も作成しました。このように、各会議の目的などを可視化し、会議参加者全員が「何のための会議なのか」という共通認識のもとに話し合い

ができるようにしました。また、会議の種類や自分が所属していない会議はどの会議を経ているのかなどが、一目でわかるようにもなりました。さらに、月のレギュラーの会議内容と運営上必ず生じるイレギュラーな課題を、どの会議で討議するのかを会議準備者が区別させることができるようになりました。そのため、会議準備が的確かつ効率的に行えるようになりました。会議準備によって、その会議が実りあるものになるのか否かが決まるため、会議の司会者の役割の重要性も確認することができました。

<おわりに>

昨年度から今年度にかけて、当法人の本部体制を確立したため、中長期経営計画の人材育成の一環として、会議の現状把握と課題整理を本部が中心となって行いました。

主な成果として、職員会議での職員の発言回数が増えたり、クラス会議にリーダーが入ることで、クラスの課題を園全体の課題としていち早くとらえられたりするようになりました。また、会議の役割分担を明確にすることで、中堅職員の育ちも感じています。その反面、会議数が増えたため職員が負担を感じたり、各会議内容が時間内に終われない等、新たな課題が出てきています。会議は改善段階ですので、他施設の会議からも学びながら、さらに会議の質の向上を図っていきたいと思っています。会議の質の向上は、職員集団の育ちに直結していることを今回の取り組みの中で感じました。職員一人ひとりが生き生きと働くことができる職場づくりとして「人を大切にする」ことが当法人の理念です。その理念のもと、本部が牽引役として力が発揮できるように、力量をつけていきたいと思っています。

文責：(福) 頓野児童福祉会・専務理事

中岡 亘

お知らせ・今後の予定

●2.27 署名提出・国会行動にご参加ください！

現在開会中の通常国会に、請願署名を提出するために国会議員に要請する行動を行います。

署名提出・国会大行動

日程：2月27日（火）10：00～15：30

会場：衆議院第1議員会館・大会議室

午前の情勢学習には、上智大学の中野晃一さんを講師にまねきます。午後は議員要請・省庁懇談を行います。保育士募集に人が来ない・加算Ⅱの混乱など、現場の状況を議員に伝え、国会で取り上げてもらうよう働きかけましょう。

ぜひ、ご参加ください。

※署名用紙は、2月15日までに全国保育団体連絡会までお送りください。

〒162-0837 新宿区納戸町26-3 保育プラザ1階

2018年度 セミナーの日程

●夏季セミナー

2018年9月2～3日（日～月）

●主任セミナー

2018年11月9～10日（金～土）

●民間保育園経営研究セミナー

2019年1月14～16日（月～水）

経営懇主催セミナー以外にも

*第50回合研集会8月4～6日（大阪）

*給食セミナー12月22～23日（香川）

来年度の日程に入れて、ご参加下さい。

●第50回合研集会企画確定 分科会の提案も募集中！

*記念講演は、龍谷大学の白石正久さん。命を守り育てる保育の仕事の意味や専門性を、たっぷり語っていただきます。保育の力や役割を、若手もベテランも確信しよう！

*2018年8月4～6日に大阪で開催される第50回合研集会分科会に、保育実践を提案しませんか？提案の申込みを、3月末まで受付中です。是非、各園でご検討ください（同封資料）。

経営懇は、合研集会をきっかけに生まれました。50回の記念集會に、ぜひ、全国各地からご参加下さい。

あなたのストレス解消法は？①

- 毎朝1時間の太極拳。週2回のテニス。月3回のサンシン演奏。（兵庫・理事長）
- 山歩き（神奈川・70代・理事長）
- 酒を飲んで睡眠をとる。おしゃべりをして笑う（静岡・理事長）
- カメラをもって散歩すること（群馬・60代・理事長）
- コーラスに所属し歌を楽しむ。旅行やジム通いもしています。（京都・理事長）

※理事長編でした。

同封資料～ご確認ください

①セミナーアピール文

②経営セミナーでの保育事故アンケート 集計結果（速報版）

③2.27 署名提出・国会大行動ご案内

④2018年度ちいさいなかまのご案内

⑤第50回合研集会のご案内